

自分探しの名曲たち

探しものにも色々あるけれど、いちばん大掛かりで手間がかかるのが、「自分探し」。

ほかの誰でもない自分らしい生き方に出逢えば、人生は半分成功と考えていいですね。

大作曲家ブラームスにとって、交響曲第1番と第2番は、畏敬するベートーヴェンの強烈な影響のもとに創作したもの。そのブラームスが、人生の熟成期に、ようやく自分の言葉で音を綴った傑作が、交響曲第3番。

その「自分探し」に成功した傑作を、マエストロ岩城宏之の風格に満ちた指揮で聴けるのが3月23日の名古屋定期公演。

同じ日に演奏される「六段の調」も伝統の音楽作法のなかで独自の「自分」を見出した日本の名曲だし、チェロの巨匠・堤剛によるドヴォルザークの協奏曲もまた、アメリカにあってチェコ人としての自分を確立していた時期のドヴォルザークの記念碑的名作。

この日、格調高く「自分探し」が鳴り響く。

作家・音楽評論家 響 敏也

岩城宏之 指揮 オーケストラ・アンサンブル金沢(会場:石川県立音楽堂)

岩城 宏之 ◆指揮 Hiroyuki IWAKI, Conductor

オーケストラ・アンサンブル金沢音楽監督。東京芸術大学中退。1956年N響臨時演奏会でデビュー。63年N響の指揮者に就任。数々の名誉ある賞を受賞。N響終身正指揮者、メルボルン響終身桂冠指揮者、札幌響終身桂冠指揮者、京都市響首席客演指揮者、東京混声合唱団音楽監督、石川県立音楽堂芸術総監督。

オーケストラ・アンサンブル金沢

◆管弦楽 Orchestra Ensemble Kanazawa

1988年、日本最初のプロの室内オーケストラとして石川県と金沢市が設立。世界中よりメンバーを公募、多くの外国人を含む40名が在籍。設立時よりコンポーザー・イン・レジデンスの実施や海外公演、数多くのCD制作など意欲的な活動を行い、国内外で注目されている。<http://www.oek.jp/>

堤 剛 ◆チェロ Tsuyoshi TSUTSUMI, Cello

国際的な活躍を続ける日本を代表するチェリスト。第2回鳥井音楽賞(現サントリー音楽賞)、1973年イザイ・メダルなどを受賞。欧米のオーケストラとの共演も多い。92年日本芸術院賞受賞。桐朋学園大学学長、インディアナ大学教授。

正派邦楽会・東海支部会員

◆箏 SEIHA HOUGAKUKAI, TOKAI Member, Koto

正派邦楽会は創立90年の歴史があり、全国に10の支部を持つ。家元中島靖子の指導の元、箏・十七弦・三弦を用いた生田流箏曲を専門とする「正派合奏団」が1947年に発足。2004年3月オーケストラ・アンサンブル金沢名古屋定期公演にて東海正派合奏団が初出演している。

◆3/22(水)金沢・石川県立音楽堂コンサートホール ◆3/23(木)名古屋・愛知県芸術劇場コンサートホール ◆3/24(金)東京・サントリーホール